

令和 7 年度 春日小学校の全国学力・学習状況調査の結果について

これまで全国学力・学習状況調査の結果を検討する指標は、対象教科の得点に設定していましたが、検討のための指標(KPI)を、「意欲」に設定することにしました。指標を「意欲」に設定しがんばりを認めたり子どもの現状を把握し対応したりすることで、子どもたちの将来にわたる学習意欲の育成につながると考えています。

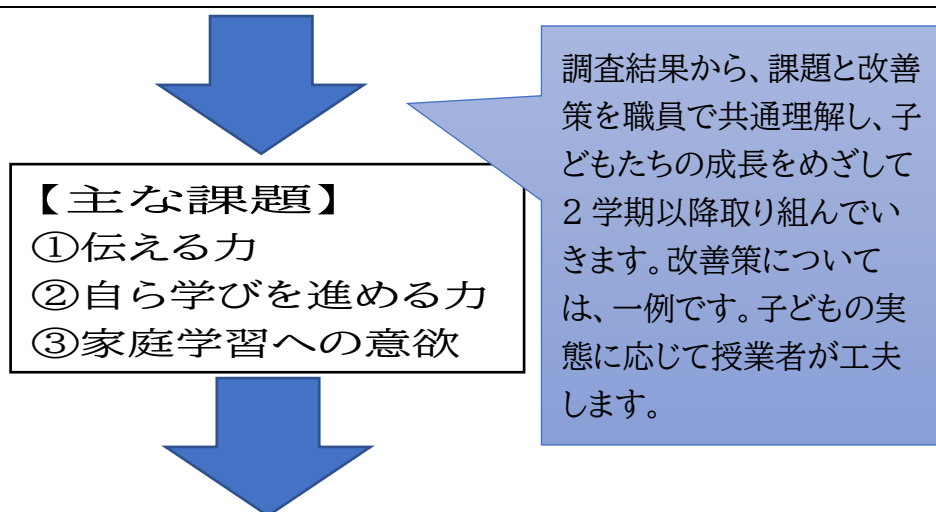
指標を「意欲」に設定するとは、対象教科の得点ではなく質問紙への子どもたちの回答から結果を検討するということです。なお、対象教科の得点については、個別の支援にいかしていきます。

この調査が子どもたちの学力の全てを表すものではないことは周知のとおりですが、指導を繰り返すために子どもたちの声に耳を傾けるきっかけになると考えています。そのために指標を「意欲」に変えて、子どもたちの学びへの意欲を高め成長させていきたいと考えています。

結果の検討については、下表に示している5点に整理して行いました。

	結果の概要
学習意欲	○「国語(算数・理科)の勉強は好きですか」の設問に対して、どの教科も肯定的な回答が多く、全国や県の結果を上回っている。特筆すべきは、「得意ですか」の設問より肯定的な回答が多いということである。「得意」と感じている子どもより「好き(楽しい)」と感じている子どもが多いということは、苦手なことにも自ら取り組もうとする姿勢が見られると言える。 ○「授業内容はわかりますか」の設問に対しての肯定的な回答も全国や県を上回っている。
自己肯定感	○「自分にはよいところがあると思いますか」という設問に対して、肯定的な回答が多いが、全国や県の結果と比べると低い結果になっている。上記のような学習意欲や理解度の結果に比べ低い結果になっていることから、なかなか自信をもてない状況にあると考えられる。肯定的な言葉かけなど、自信をもてるような支援が必要である。
授業改善	○「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫していますか」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」の設問に対して、肯定的な回答が全国や県の結果より低く、本校の課題として捉え改善策を考える必要がある。 ○「対話を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の設問に対して、肯定的な回答が多い。対話に対する苦手意識が薄れ、対話の意義を子どもたちが感じてきていることが窺え、昨年度から全校をあげて取り組んでいる対話を授業に組み入れる取組の成果が出てきている。 ○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の設問に対して、肯定的な回答が多く、総合的な学習に特定すると、肯定的な回答が

	増えている。これは総合的な学習が他教科等に比べると、自分で学習を進める場面が多いことが関係していると考えられる。現在行っている自ら学びを進める力の育成を継続し、他教科でも生かせるようにしていく。
家庭学習	○「授業以外に、普段(月～金)どれくらい勉強しますか」の設問に対して、一番多かった回答は「30分～1時間」であった。全国や県の結果と比べて、本校の授業以外の学習時間は短い方である。しかし、この点については時間(量)で比べるだけでは不十分であり、内容(質)についての検討が必要であると考え。家庭学習で身につけることが期待できる計画性や継続性、それに伴う意欲の向上などの側面からも考えていきたい。
ICT 活用	○授業でのPCやタブレットの使用頻度について、本校は全国や県よりも高い結果になっている。 ○「ICT機器での文章作成や情報収集、情報整理(図、表、グラフなどにまとめる)ができる」という設問に対して、肯定的な回答が全国や県より多い。 ○「ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる」という設問に対して、肯定的な回答が多い。 ○ICT活用について本校は、取組が進んでいる方であると言えるが、有効な活用になっているかは今後も検討していく必要がある。ICTはあくまで学習ツールなので、使うことより使い方を意識することが大切だと考える。



【改善策】 ①伝える力 ⇒ ペアなど少人数から伝える場面を増やす 伝え方の整理 ②学びを進める力 ⇒ 学習過程の提示 企図した「指導・支援の場」と「任せる場」の設定 ③家庭学習への意欲 ⇒ 発達段階に応じた自主学習への取組 授業との連携
